夕刊
磐城新聞
二月十五日發行
發行所 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

十四

例へば五寸五分角は何才か（才とは材木の計算であるますから不知の御方もありましようが此れも將來の參考にならうと思ひますから計算をして見ます）

と云ふ場合55×55＝30、25即ち五寸五分角の材木は三〇才二五である

此の計算法は

實五五、法五五であり

實五（末位）法五（末位）を見合せ5×5＝25の九九に依り二桝下つて單位として二五を置く

此の時のパンメン五五二五

次に法五を二桁目に加へる

此の時の盤面六〇二五となる

次に法五と實六を見合せて5×6＝30と九々に依り六の有る桁を三に直す

此の時のパン面三〇二五即ち答である

例

135×135＝1825

計算法

一、實五と法五を見合せ5×5＝25の九々依り二桁下つて單位として二五を置く

此の時のパン面一三五二五となる

次に法五を實一三五の桁に加へ一四〇二五となる

二、法二と實四を見合せ1×4＝4の九々に依り次のケタへ加へる

此の時のパン面一〇四〇二五

次に法三と實四（只今1×4＝4として拂つた數）を見合せ3×4＝12の九々に依り只今四を置いたケタより一ケタ下つて單位として一二を加へる

此の時のパンメン一〇五二二五

三、法一と實を見合せ1×1＝1の九々に依り一ケタ下つて1を加へる（只今掛けた實の一を拂ふ）

此の時のパンメン一五二二五

次、法三と實一を見合せ3×1＝3の九々に依り答より一ケタ下つて三を加へる

此の時の盤面一八二二五、即ち答である

例

27×29＝702

計算法

一、實七と法六を見合せ7×6＝42の九々に依り二桁下つて單位として置く

此の時の盤面二七四二となる

次に法六を實七に加へる

此の時の盤面三三四二となる

二、實三（法の六を加へた箇所）と法二を見合せ2×3＝6の九々に依り三を拂つて下位に六を加へる

此の時のパン面三一〇二

次に實三と法二を見合せ2×3＝6の九々に依り三を拂つて下位に六を加へる

此の時のパン面七〇二となる、即ち答である

練習問題

25×25＝　26×24＝
37×35＝　86×36＝
46×48＝　86×87＝
67×63＝　135×135＝
145＝145＝　155×156＝

習慣性に就て

前松佐嘉

（一）

何處の家でも子供を育てゝ行くには多少はどうしても叱らなくてはならない場合の出來るものだが、併しこれが嚴密な意味から言へば叱らずに濟むやうに育てることが理想的な敎育方法である、既に叱る必要を生じたと云ふことは敎育のどこらかに手落ちのあつたことを證するもので最初に細心の注意を拂つて置けば寧も叱らないで濟む筈のものである、叱る必要の起るのは子供が我儘をいふ爲めであるが、若し我儘を言ひたくも言ふ必要のない程度に最初から敎育の出來るものなれば恐らく一言も叱らずと濟むことであらう

例へば子供が入浴を嫌つたり、洗面又は含嗽を嫌つたり、そのほか種々のしなくてはならない事を嫌ふのは何故であらうか、それは嬰兒の時から左樣いふことゝ規律正しく行はせなかつた爲めで、若し早くから嚴重に行はせて居れば彼等はかうしたものだと思ひ込んで居るから無闇に嫌ふことはない筈である、然るに多くの場合は親がその習慣をつけないで置いて既に或る惡い習慣が構成されて後に、それを俄に改めようとする處が子供はこれを受け容れない、そこで我儘といふ理由の下に叱らねばならない結果となる、併しこの場合をよく考へて見ると我儘をいふ子供が惡いのではなく然うした育て方をした親の方が惡いのである

習慣の構成される事には無意的に環境の示範に依つて育成をれるものと父母長上の有意的な努力に依つて育成されるものと二つあるが幼兒の習慣は無意的の間に育成される場合が甚だ多いのである、即ち言葉づかひや、歩行の仕方や、日常の行儀といふが如きものは多くは家人の示範と友達の交際間において自然と見習ふて行くもので、これ等は殆んど無意的なものである

〔社會の今日〕

2月16日 △日蓮上人安房に生る（貞應元）△露國大革命（大正六）△荒木陸相熱河猫匪の所信發表△昨年十一月締結の露佛不侵略條約の効力發生法令にフランス大統領署名す（昭和八）

〇

蔹拓く七の匂ひや春雀　旋風

春淺き光を受けた芍藥のくれなゐの芽は崩えいでにけり　西田紅街

講談

浪人長屋

(14) 日岐武志作 月草道子畫

宿場の眼ざめ

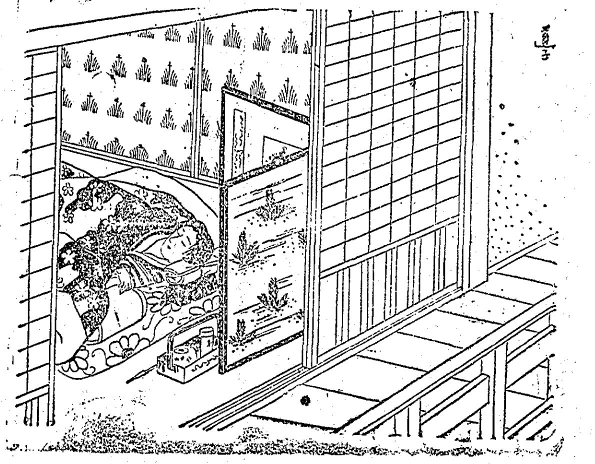
高崎宿本町、宿屋の二階で、源三郎がふッと、眼がさめた時はもう晝近くで明るい春の陽差しが障子の外にこぼれてゐた

直ぐ傍らには小花がこちら向きにすやすやと安らかな寢息をたてゝゐた

足の方が蒲團の中でねつとりと汗ばんでゐた。二人とも窮屈な姿勢で寢てゐたものだと源三郎はふと、をかしいやうな氣がした

——さぞ、疲れただらうと、小花の顏を見ながら思つた

いくぶん、おしろい燒けはしてゐるが細おもの生れ付きのうつくしさだつた。鼻筋が白くとほつて眉と頤のあたりのうつくしさを一層ひきたてゝゐた



黑い髮の毛が二筋三筋、白い額のあたりにこぼれてゐる、襦袢の襟が少しはだけてゐて、そこからふくよかな胸のあたりがわづかにのぞいてゐた

——女はかうして今まで幾人もの男と共にして來たのだ

——汚れてゐる……

にもかゝわらず、こゝろは十六七の娘のやうなあどけなさが殘つてゐる。白い玉のやうに汚れがなかつた

永い間、卑しい稼業をして來たにもかゝはらず、荒んだやうすは少しも見えなかつた

源三郎は、それがたうといものだと思つた。わづか三四日の道中だつたが今は小花の純な樣にこゝろが引かれた

どつちにせよ、かうして一夜の夢を共にした以上、小花をどこまでも——と思つた

餘程疲れてゐると見える

源三郎は小花の寢顏をもう一度見ながら、さうつぶやくとそつと起き上つた

厚袍のまゝで障子の外に出るとそこの手摺に寄つて宿の裏庭を見下した

肥つた女中が洗濯物を棹に差してゐる。その手がふくれてゐて赤い

よく見れば自分と小花の衣類だつた、今朝明け方泥だらけになつて地獄穴から逃れて來で、この宿を叩き起したことが思ひ出された

ひどい目に逢つたものだとつた

腰のあたりが、まだわづかに痛いやうな氣がした

『お早ようございます』

女中は源三郎の姿に氣がついて下から挨拶した

『お早やう、世話になつてすまぬ』

『いゝえ……』

頬つぺたも赤い、人のよさゝうな女中の顏が照れた

源三郎は階段を下りると宿の下駄をつゝかけて、ぶらッと通りへ出た

中仙道指折りの宿場だけあつて、人や馬や駕籠がなごやかな春の日の中を泳いでゐた

名物の、タバコや、木綿ものや、眞綿などを賣る店がごちやごちやと軒を並べてゐた。そんな店を一軒毎に眺めて歩くのも今朝はまた格別樂しみに思はれた

小花を得たからだらう

さう思つて源三郎は吾ながら苦笑してゐた

どこかで、うぐひすが啼いてゐるのも田舍の宿場らしかつた

小半刻も歩きまはつて戻つて來てみると、小花はまだ先刻姿勢のまゝで眠つてゐた

源三郎は、ふたゝび小花の傍へ、そつともぐり込んだ。まだ眠り足らなかつたのだ。鼻の穴がつまつたのか、小花はクー、クーと、變な寢息を立てゝゐる

『ぷッ』

と、思はず噴き出した源三郎の聲に、小花はふッと眼ざめた

電話開通
平局五七七番
入山坑務所

大景品付
時計眼鏡と大賣出し
移轉改舖記念の爲時價の二割安にて提供
舊正月二日、三日…二日間
二丁目 根本時計店 電話六〇七番

紅茶代用品！
即席しるこ
何處の御家庭でも熱湯さいあれば即席に出來ます
尙一分間炊は一層風味良なります。
在來の晒あんとは全々違ひ日向臭くありません。
小豆の天賦の風味芳香と榮養分を完全保有されて有ます。
一袋正量三七五瓦入（約五人分）金三十錢
贈答品函入 金一圓
新草餅を始めました
製造發賣元 日進堂 平町田町 電話一八六

新築感謝
萬年筆大賣出し
舊二日より景品呈上
記念金文字御名入無料
お氣に召すまで金ペン交換
五ヶ年絕對責任付
定價一二圓以上
品種豊富……
角忠 佐々木商店
平紺屋町角公園前
電話二三三番

謹啓私儀今回共保生命保險株式會社磐城監督所主任として就任致候間舊に倍し今後共何卒御引立賜はり度偏に奉懇願候 謹言
各位

有給社員（數名）募集
男女ヲ問ハズ奮鬪家ハ來タレ固定給及月收多大希望者ハ午前中面會ノ上相談ス
共保生命保險株式會社
磐城監督所主任 福島健之 平町驛前白銀町一〇
磐東代理店 主管 加藤丈夫
平代理店 主管 金子豊吉

貸切車御用の際は是非電話六四〇番尼子タクシーへ御用命を御願申ます。
新車も購入致しました。
平町二丁目 尼子自動車部 電話六四〇番

貸切ノ御用命ハ
ゼヒ三井自動車部へ
電話六八五番
乘合は 好間…合戸…澤渡ヶ面行

安價で効果的な天然加里肥
最も適應する作物!!
蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類
◈茄果類ではトマト、茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
◈天然加里肥は酸性でないから如何に施用しても土壤を惡變する虞は絕對にありません
一俵 參拾錢（大量取引は特に割引致します）
製造販賣 金成國雅 平町鎌田 電話六八八
トラック
貨物自動車の御用命に應じます

小兒科專門
附 內科
志賀醫院
平白銀町十番地（前伏見町長跡）
電話（呼出）六五〇番

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科專門
大和田醫院
平町南町（電一〇七番）
（自炊の便あり）
大和田郡司

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館 須藤まつの

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ マス ハカリ
体温器 寒暖計
◎秤ノ取次・修理・改造致シマス
開內藥局 電話四〇番

安齊外科醫院
◎內臟外科 ◎外科一般 ◎花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）

磐城共濟病院 電話六四一番 一二四番
內科 小兒科 院長醫學博士 石山謙郎
產婦人科 副院長醫學士 五十嵐雄二
外科 皮膚性病科 耳鼻咽喉科 部長醫學士 有馬勇二郎
X光線科 物理療法科 醫學博士 石山謙郎 技術員 石山彪
藥局 藥局長藥劑師 吉本孝平
衛生試驗所 獸醫 高後利雄 事務長 鈴木寶雄
△診療時刻 午前八時より午後五時迄

眼科專門
賀澤眼科
平町南町 電話七二番
診療時間 毎日 自午前八時 午後九時迄

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社
磯島 平町 電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

皇祖を記念奉齊の爲 天照節の制定を請願
內郷村の大內氏が中央に運動

內郷村報の發行人にして常に地方の敎化運動に從事しつゝある大內民恵氏は天祖 天照皇大神の御神靈を祭祀し、御聖德を仰讃し、併せて建國の精神を涵養する爲に、特に祝祭日を制定し、之を天照節と稱せられ度いと云ふ希望から二百餘名の賛同を求め縣選出代議士の紹介により此程左記請願書を秋田衆議院、近衞貴族院兩議長に提出し上下を擧げて國体觀念强調の折柄今後の推移を刮目されてゐる

（前略）建國以來悠々三千歳、皇統連綿、君臣一體世界無比の國體を顯現して、今日の偉大をなしたのであります。されば我國家に於ては 天照皇大神を、伊勢皇大神宮に奉齋しまつり、帝國の宗廟として、上御一人より下萬民に到る迄、國を擧げて之を尊崇し奉り、之が祭祀は、二月の祈年祭、五月、十月の神御衣祭、六月、十二月の月並祭、十月の神嘗祭、十一月の新嘗祭、式年の御遷宮祭臨時の奉幣祭を大祭とし日別朝夕大御饌祭、歳旦祭、元始祭、紀元節祭、風日祀祭、天長節祭を中祭として、其他數々の小祭を行はせらるゝといふ樣に鄭重莊嚴の極を致され、降つて國民各戶は其大麻を拜受して、之を神棚に奉祀し、崇敬の至誠を致して居るのであります。又一面、我國家の祝祭日を數ふるに、四方拜より大正天皇祭に到る迄十二日を算し、內四方拜紀元節、天長節、明治節を四大節と稱し、特に全國に於て一齊に式典を擧げ、其祝祭を行ふ事になつて居ります。玆に私共は、上述せる 皇大神宮に於ける祭祀と、國家の祝祭日とに就いて深く惟みまするに、皇大神宮に於ける大中小祭は、單に 皇大神宮に於ける祭祀の觀あつて、一般國民中之を存知する者は、關係者以外殆ど皆無とも申すべく、次に國家の祝祭日に於ては、四方拜、元始祭、春秋皇靈祭、神嘗祭、新嘗祭等何れも 天照皇大神の御神靈を仰讃するは勿論でありますが、それ〳〵其祝祭日に相當する由來に基き、其に因める祝祭を行ふに過ぎないでそれも宮中以外、一般國民は之を關知せざるが如き觀があるのであります之を要するに、全國民を擧げて一齊に 天照皇大神を祭祀する日は、無いといふ事になるのであります。斯くては、畏くも建國の神勅を賜はりたる御本體に對し奉りて、眞に恐れ多い次第ではないかと恐察し奉るのであります。殊に建國の精神に還れと絶叫せられつゝある今日に於て、尙一層痛切に考へさせらるゝのであります。今や萬民仰望したる 皇太子殿下の御降誕を拜しました。之を好機として 天照皇大神の御神靈を祭祀し、御聖德を仰讃し、併せて建國の精神を涵養する爲に、天照節なる大祝祭日を制定し、四大節に一大節を加へて五大節とし、全國一齊に式典を擧げ、其祝祭を行ふ樣にいたしたいと思ふのであります（中略）仰き冀くは、私共の微衷を容れ、之を議員各位に諮られ、愼重審議を遂げ、全員御一致之を可決し、其の實現を期せられん事を右謹んで請願いたします

大鯉幟と角力で佳き日を記念す
來端午の第一校

平第一小學校では 皇太子殿下御生誕記念事業として手工受持敎師指導の下に職員兒童協同で非常に大きな紙製の幟を作り、端午の節句に之れを揭揚し大運動會を開いて兒童の相撲を催し佳き日を壽き奉ると同時に非常時氣分と帝國日本の國民的情緒にひたらせる計劃であると

。。。。磐女記念植樹。。。。 磐女校では 皇太子殿下御生誕記念として『五葉松』を奉安庫前右側に植ゑ校長自筆の記念石碑を中心に小川涪赤御影の石柵を繞らす事に決定移植の適季を待つてゐる

全國燃料界の代表 淺野會館に集る
來五月總會開催

千葉縣川口町に在る此種機關の權威たる商工省所管燃料研究所の總會は常磐石炭鑛業會主催の下に五月六日午後一時から內郷村磐炭森野翁頌德記念館に於て開催する事となり臨時委員として

（古河）坂本、菅谷、下野安孫子（磐炭）渡邊、前川、岡部、菅原、濱崎（入山）渡邊、太田、吉田大貫（大倉）岩瀨、鳥山尾藤（大日本）鄙外一名（福島）菊地外一名

諸氏が目下準備中であるが當日は全國關係者六十餘名が上野發一番列車にて綴驛下車の筈で諸般の協議打合せ後斯界の權威三名（目下交渉中）及び本社代表前川磐炭專務、山元代表下野古河鑛業所長の講演あり、午後五時より常磐鑛業會主催の招待宴會（場所未定）あつて一泊、第二日目七日は出席者を甲乙二班に分ち

（甲班）古河、磐城、入山
（乙班）入山、磐城、古河

の順で夫々見學、同夜は燃料協會の招待會あり、八日四倉町磐城セメントを視察の上助川町に直行、日立製作所、同鑛山を視察して解散すると

。。。。捕賊援助者表彰。。。。 內郷村大字御厩字下宿一六本田正文（三〇）同高木秀夫（二四）同草野米吉（三六）の三君は去る一日銅線窃盜犯人同村古物商伊藤勇治（三二）逮捕の警官に援助した功により今十五日渡縣刑事協會長より表彰された

豫算增大に伴ひ授業料を値上げ
平町學務委員會の內議

平三小學校の來年度豫算は過般學務委員會に於て七萬八千圓を計上、更に昨十四日再會種々協議する處あつたが豫算の增大に伴ひ之が財源は差し當り授業料値上げに俟たねばならぬらしく當局では最近縣下首要都市の實例を調査した處福島の一圓五十錢を筆頭に白河一圓二十錢、郡山同坂下一圓で單り平町のみ八十錢と云ふ破格の狀態にあるので大体一圓に値上げされるものと觀られて居る、尙これにより平商校の授業料も値上げされるらしいと

陽温かに風冷たからず 絶好の賣り初め日和
今朝來平全町の大賑ひ

南洋ロツプ島の一行のみかは、曇り硝子から天体を仰ぐ素人天文學者が多數現れた日食の陰滲な昨日に引きかえて今舊正月二日の朗かさ、早曉一時と云ふに大通りの寒天に響く下駄の音、殘んの星影きらめく時刻にあるまじき三々五々の人出に賣り初め氣分は早くも町中に横溢した、町內の入出に近在から殺到した地下足袋、背負ひ籠の農夫農婦が加はつてメガホンの客呼びに、福引の鈴の音に雜然騷然たる大通りの如きは十時頃既に肩摩轂擊の大雜踏を現出し陽温かに風冷たからず此上無い日和に惠まれた今年の賣り初めであつた

平署員活動
交通整理と萬引の警戒

其筋では例年の如く午前一時より各種自動車を比較的雜踏しない材木町、南町通りを迂回せしめ、常磐銀行マルトモ兩十字路の交通整理官の外、私服總動員で各商店に張り込ませ嚴重なる警戒に當つた

十時迄に三千三百人
平驛の乘降客

恒例の入出を豫想して列車の增結迄した平驛は午前十時迄の乘五百五十八人、降

三千三百二十七人で夜迄には昨年の乘降四千四百七十九人を遙かに突破し、乘降七千に上るであらうと觀測されてゐる

。萬引 赤井村大字赤井字反町農中田廣吉（七二）は今十五日午前十時頃五丁目釜屋商店より鍋（價格三十五錢）を萬引せんとした處を平署員に現認引致された外母子三人伴れの組其他數件あつた

十三日會 存廢協議
次回例會で決定

十三日會では過般來講師の關係其他種々の事情から廢止或は隔月開催等の意見あり一昨夜幹部會を開いたが古き歷史と約三百の會員（會費年一圓）あるこの會を解散するに忍びないの聲高く結局その存續は次回の總會に於て決定する事となつた

就學兒百廿餘名增
急テンポに膨れる平町

平町來年度新入學兒童數は既報の如く（第一）二一七名（第二）二一八名（第三）二三七名 合計六百七十二名で昨年に比し百二十二名の增加で內本籍者二百五十名、寄留者四百五十二名であると、尙寄留未屆けは百四十五名もあり、今期該當者は昭和二年四月二日より三年四月一日迄のものであるから速に屆出でられ度いと

左義長（鳥小屋）の事ども
赤井嶽男

サギチヨウ（左義長）正月十五日に宮中で行はれた儀式、淸涼殿の東庭に靑竹三本を束ねて立て、上に扇、短冊、主上の吉書を結びつけ、陰陽師などが唄ひ囃しつゝ燒くもの上古支那の爆竹の俗を傳へたものであらう、民間でも十四日、十五日、又は十八日に行はれ俗にどんどと云ひ松竹、注連飾り書初などを持ち寄りて燒き、年中の疫病を拂ひ其の火で餠を燒いて食する（三省堂百科辭典抄）

我々の少年時代に於て舊正月十四日の鳥小屋ほど愉快な年中行事は無かつた。『炭そこねわげえ』恁うした事を言ひ乍ら寒さに頰を眞つ紅にした少年の群は五十日も前から町內の一軒〳〵を廻り歩いて小屋を造る空俵を貰ひ集めて長い竹竿に通して二人の少年に昇がせ、輪番で定められたその年の大將の家へ運んで材料の堆高くなるのを樂しみ乍ら當日を待ち焦れるのである、燒芋などを頰張り乍ら少年等が忙し相に驅け廻つて貰ひ集めた炭俵が可成りの嵩になつた頃、大將の家では態々附近の農村まで出かけて夫々其の家の資力に應じて成る可く太い梵天竹を買ひ込む。巍然な梵天は當日の來る迄屋敷內の一廓に立てられて每、田樂の串を削りに集つて來る少年は支への綱を切るべく他町から曲者の侵入するのを警戒するのである

愈々當日である、炭俵の小屋所謂鳥小屋は子煩惱な親達や、青年などの手に依つて造り上げられ、この日を祀る歲德神の棚は神酒榊その他の供物もの〳〵しく小屋の一隅に設けられる、老若男女の一般參詣者が紙へ拈つたお賽錢を投げ、かしわ手拍つて瞑目一番すると傍に控へた世話人は御神酒を酌いで且つ幾串かの田樂を賽錢の對價として渡すのである、恁うした參詣者は茹でた芋や蒟蒻を行儀よく刺した幾串かの田樂を後生大事に持ち乍ら次から次へと各町內の小屋を廻り歩くのである

『おら石つころ上げて拜む眞似して二串貰つた』計劃の鬮に的つたのを矜らしげに語り乍ら嘗を欺く箏り火のそばで田樂を頰張る惡太郞もあつた『今夜は良うく翠丸をあぶれよう』恁麼ことを眞顔で言つて『やあい！やあい』など子供達から囃し立てられる一杯機嫌の爺さんなどもあつた、そうした裡に今しがた撤退して來た注連飾りや、その他お正月さまはどん〳〵この聖い火の中に投せられるのである

この晩頬冠りをした少年や道化た大人などは『一と鍬ざんぶりしよ、二た鍬ざんぶりしよ、三つ鍬目の鍬先に、金銀茶釜を堀り出して、阿父さんは札勘定、母さんは錢勘定』など唄へ乍ら各戶から餠を貰ひ歩くそれからまた附近の乞食などはこの日を書き入れに、『肴づくして拂ひませうか厄落し厄拂ひ』などと喚き歩いて矢つ張り餠を貰ふ、かくして鳥小屋は曉方近く燒かれてしまふのである、なつかしき少年の日よ。（舊稿）

月見町放火魔 陪審を辭退
近く平支部で開廷

既報―平町月見町二七酒醬油小賣商伊藤喜一郞（四二）の放火事件は十四日陪審公判を辭退したので近く平支部で中島裁判長係り公判開廷される事になつた

。。。。三等局長會議。。。。 平町附近三等局長二十餘名は來る二十一日午前十時より保險打合せ會を開催すると

。。。。堀江君二次試驗へ。。。。 過般行はれた消通り巡査採用第一次試驗を最優秀でパスした平町鎌田町堀江久雄（三三）君は愈々來る廿六日午前九時から縣敎習所で執行される第二次受驗（身体檢查、口答試問）の資格を得たので來る廿五日出福する事になつた

青年を主體に 禁酒同盟會設置
入遠野の自力更生策

入遠野村大字入定部落靑年團では自力更生の一端として此程禁酒同盟會を設け左の如き申合せを向後二ヶ年間繼續實行する事になつたと

一、神前の御神酒及び三々九度の酒を除く外飮酒は絶對に爲さゞる事
二、これが目的達成のため會員は每月十錢宛貯蓄する事

藤間へ戶惑ひ海豹
一時はラツコと大騷ぎ
豊漁の前兆だと濱人喜ぶ

昨十四日午後一時頃夏井村大字藤間海岸に一頭のアザラシが打ち上げられて居るを通り掛つた同村渡邊薫（三二）さんが發見取り押へたが身長四尺、五貫匁の雌で早速リヤカーに乘せ平署に屆出たが地方には稀に見るもの丈けに一時はラツコだなどと大騷ぎをした上拾得者に下げ渡されたが同海岸では元日の事とて豐漁の前兆ではないかと喜んで居る

。。。。蛸入道の忘れ物。。。。 舊正元日の昨日午後平驛列車內に大蛸一ぱい遺失してあるを檢車員が發見平署に屆出たが係官もホト〳〵持て餘して居た

籾貯藏庫設置協議

本郡に於ける籾貯藏倉庫設置に關する協議會は今十五日午前十時から縣より藤田農林主事補を招き平農業倉庫樓上で開いた

。。。。平兵事主任會。。。。 明後十七日午後一時から會議室で

。。。。中野一家移住。。。。 神谷村中野長壽氏家族五人は來る十八日神戶港出帆のモンテビオ丸で南米ブラジルに移住する

凌辱致傷の不良 今度は川部で盜み
植田署の手に捕はる

勿來町大日本炭鑛坑夫佐藤竹太郞次男政藏（一七）假名―は十三日午後十一時頃川部村小川雜貨商小宅庫之助宅より手提げ金庫を盜み其中から二十錢を取り更に同地豆腐屋綠川熊德方店舖の錢筒から二十八錢を盜んだ事發覺、目下植田署で取調べて居るが同人は昨年湯本町で七才の少女を凌辱した上小刀を以て傷け當時世人を戰慄せしめた不良で精神に缺陷あるものと見做され鄕元で監視中のものだつた

南朝資料調査

平第二校では縣敎育課の建武中興六百年記念事業本縣南朝史編纂資料として同校蒐草野兩訓導を中心に郡下の史蹟その他に就いて取纒め提出する事になつた―

交換孃募集

平局では來る二十日頃女子電話事務員五名內外の採用試驗を行ふが應募者五十餘名（內

四倉通信

船主船長表彰

四倉町漁業組合では昨十四日午前十時より海盛座に於て左記八年度優良船主及船長の表彰式を擧げた、因に同年中の出漁船數百四十艘漁獲金四十二萬三百六十七圓七錢、內譯春職…沖底曳船十艘二萬二千三百八十七圓十三錢、揚繰船五艘五萬二千百六十二圓五十五錢、小型船四艘三千四百四圓二錢、夏職…鰹船二艘三萬六千四百六十二圓九十九錢、揚繰船三艘二萬一千八十六圓廿一錢、小型船六艘一千五百六十四圓六十六錢、傳馬船百二十艘三萬八千四百七十三圓四十三錢、廻船三十四艘一千四十一圓三錢、角網一張十一萬五百八十五圓七十二錢である。（被表彰者）金比羅丸―船主鈴木賢二、船長佐藤末吉、福壽丸―船主田中菊太郞、船長田中菊太郞、幸運丸―船主高木八藏、船長小野德太郞、稻荷丸―船主長谷川長八、船長鈴木粂次郞、四十八社丸―船主佐藤良吉、船長鈴木淺次、第一稻荷丸―船主菅波末吉、船長鶴岡文藏 夏職…幸運丸―船主高木八藏、船長鹽田庄太郞、第一稻荷丸―船主菅波末吉、船長鈴木粂次郞、福壽丸―船主田中菊太郞、船長田中菊太郞 傳馬船四十八社丸―大河原二郞（漁獲高四百四十九圓八拾二錢）大漁丸額賀留吉 漁獲高八百三十三圓三十五錢

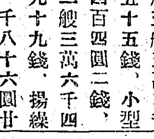
。。。。四倉學務委員會。。。。 來る十七日午前十時より同町役場に開催すると

。。。。水難救濟總會。。。。 去る十四日午前十一時より四倉町海盛座に於て開催された

。。正誤。。 二月十五日貴紙第三千九百五十號に『新人採用に伴ひ老朽を整理か』と題し御揭載相成候處、本文中現在新人三名位の高給を得てゐる云々以下は事實無根に有之候間此の全文を揭げ御取消被下度新聞紙法第十七條に依り此段及請求候
昭和九年二月十五日 平驛長後藤讓
磐城新聞社御中

磐城名物
靈峰羊羹
小川鄕驛前
平屋賣店

十六日
日出 六、二八　月出 前 七、三〇
日沒 五、二三　月沒 後 七、五八
滿潮 前 七、一五 後 七、〇五　干潮 前 〇、四〇 後 〇、五五



新 二月十六日 金曜 戊午 先負 定 牛宿
舊 一月三日 一白

諸判定顧問
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神　齋

▲一白の人 泰然自若として事に臨め、初志に進むべし▲二黑の人 展開の道は資力な豐富に備るにあり勉めよ▲三碧の人 不言實行を旨としわき目を振らず直進すべし▲四綠の人 はつらつたる元氣たくはへて事に屈せず辛抱せよ▲五黃の人 一家を束ね得ざるは樂をひきゆるの力も無し▲六白の人 滿身の熱せいは鬼神をも動かし立身出世亦成就せん▲七赤の人 立身出世の道は長きもたわまず進めば到達す▲八白の人 血氣に任せて過ちを生じ易し輕忽を戒しむ▲九紫の人 內輪に不快なる事起る日遠方交易には宜し